

CASE
08

Hands-On
Support
2023

北陸本部



【企業名】
株式会社丸仁

【代表者】
雨森 研悟

【資本金】
90百万円

【本社所在地】
福井県福井市花堂中2丁目29-5

【売上高】
602百万円(2022年5月期)

【設立】
1984年6月

【従業員数】
61名

【業種】
印刷・関連連業

【営業品目】
反射材事業、転写事業、
セキュリティ事業

ファッション素材としての 反射材の販路拡大と SDGs経営の実現

株式会社丸仁

☑ 事例概要

SDGs経営の実現に向けた経営計画、 事業戦略・アクションプランの策定

同社は、熱転写プリントマーク及びアパレル向け反射材の開発、製造、販売を行っています。

SDGsに取り組む経営ビジョンを定め、新規市場開拓に向けた事業再構築を進めています。

強みである反射材の展開は歩行者の安全を確保し、SDGsターゲットの一つである「世界の道路交通事故による死傷者を半減させる」に貢献できます。経営ビジョンの具体化と、経営計画への落とし込みを福井商工会議所と連携支援を行ったモデル事例です。



北陸本部
シニア中小企業アドバイザー
金瀬 栄義

☑ 企業概要

反射材における 独自の技術・商品開発力

同社の企業理念は、「時代が必要とする商品を常に創造する」を掲げている。技術開発に注力し、特許も多く取得している。その代表的なものとして『再帰性反射技術』がある。

再帰性反射とは、受けた光を同じ角度で光源に向かって返す現象のことである。車のヘッドライトやフラッシュの光によって、衣服などにプリントされた反射材が浮き出て見える。

従来の反射材は、任意の色彩を表現する場合、反射輝度が著しく低下する欠点があった。これを克服するため、当社は「高輝度カラー反射材」の技術を開発した。ポリエステルフィルムに光を反射させるため透明の金属化合物層を使用することで、反射輝度の高いカラー反射や虹色に輝く反射を可能にした。



■ 反射材を使った商品(反射前)



■ 反射材を使った商品(反射後)

☑ 経営課題と支援テーマ

中小機構との出会い

福井商工会議所と連携支援

同社は、SDGsセミナー(福井商工会議所、中小機構共催)に参加され、福井商工会議所の経営相談窓口に、SDGsを意識した経営への転換を図りたいと相談があった。

福井商工会議所より、中小機構北陸本部の紹介があり、SDGsへの取組みとして社外の専門家を活用するハンズオン支援を提案し、福井商工会議所と連携して支援を実施した。

問題意識と相談内容

新規市場開拓に向けた事業再構築支援

転写マークは、新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツイベント等の機会が減り受注が減少していたが、徐々に回復しつつある。しかし、海外も含め競合が厳しくなっている。

反射材は、交通安全の観点から一般顧客にも認知され、売上が増加しつつあり、更なる強化を図りたい。このような新しい価値を自社商品に取り入れ、事業再構築に取り組み今後の成長を目指すのと同時に、時代に適応した企業体質づくりと人材の育成を行いたいと支援要請があった。



■ 自社製品販売実店舗 (LIGHT FORCE)

経営課題の設定

SDGs時代に適応した 企業体質づくりと人材の育成

同社社長より、印刷事業、反射事業、加工事業および新分野の相乗効果を狙いとする経営ビジョン「丸仁シナジーマップ」が示されている。実行段階ではSDGsを積極的に取り入れる方針が出された。事業再構築補助金を活用し、SDGsの取組みに向け新しい転写加工場に併設した自社製品販売実店舗 (LIGHT FORCE STORE) の準備も整っていた。

一方、社内ではSDGsへの取組みについて理解が深まっていないとの課題があった。そのため、社内におけるSDGsの認識を高め、経営ビジョンの具体化が課題となっていた。

支援テーマの決定

経営ビジョンの社内浸透と 自ら行動する文化への転換

経営ビジョンの実現には、社内のSDGs認識向上が必要となっていた。SDGsに取組む目的と進め方を整理するために、中小機構の事業再構築相談・助言事業を活用し、SDGs経営に知見のある専門家3人を派遣した。

社員とのコミュニケーションを通して、SDGsへの理解向上を支援するとともに、SDGs経営の進め方の共通認識を醸成した。

このような取組みをさらに推し進めるため、SDGs経営実現に向けた経営計画策定をテーマとし、引き続き、中小機構の事業再構築ハンズオン支援で支援することになった。



■ プロジェクト活動の様子

(事業再構築) ハンズオン支援事業(総合)(旧 専門家継続派遣事業)

SDGs経営実現に向けた経営計画、事業戦略・行動計画策定

- 支援期間 2023年2月～2023年7月(10日)
- 派遣専門家 川嶋 正己 [専門] 環境経営、SDGs経営支援
- プロジェクトチーム 全社(管理、営業、製造)のリーダーで構成

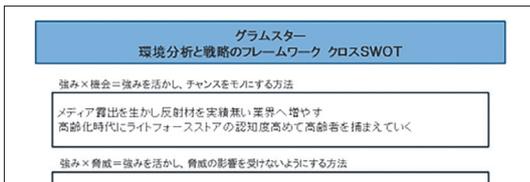
SDGs取組み状況の確認と事業環境分析

企業理念の確認、経営方針確認、将来ビジョンの共有を行うとともに、SDGsの重要性について学び、他社事例を参考にして「SDGsとは何か?」の理解を深めた。

また、現在の状況を「環境省版SDGs紐づけチェック様式」に基づき確認した。従来より反射材を交通安全に活用することを提案しており、これはSDGsにつながるということがわかった。また、事業環境分析を行い、市場分析・サービス・製品の強みを整理して「丸仁SWOT分析」としてまとめた。

SDGsと事業環境・事業の関連性整理、課題の検討

SDGs視点から機会とリスク、経営資源の整理、バリューチェーンにおける展開方針を検討した。SDGs版SWOT分析様式を用いて、「丸仁SWOT SDGs版クロスSWOT分析」を作成した。これをもとに課題のリストアップを行った。課題は、本業の視点「for Business」と社会貢献の視点「for Society」で整理した。



■ クロスSWOT(一部)

SDGs経営実現に向けた事業戦略・行動計画づくり

2030年に向け、企業として目指すべき姿を検討し、「優先課題検討リスト」を確定、将来の方向性を定めた。「for Business」では社会に反射材の認知を広げ交通事故を減らす、「for Society」では定期的に地域のイベントに参加し交通安全と反射材の有効性をアピールすることを設定した。課題ごとに、目標設定と施策の展開を行い、「丸仁SDGs中期計画」「各部署SDGsアクションプラン」をまとめた。

また、SDGs経営を社内外へ浸透を図るため、「丸仁SDGsアピールアクションプラン」を策定した。具体的項目として「福井県SDGsパートナー宣言」を申請した。

SDGs経営優先課題検討リスト「for Society」		
Goal	ターゲット	将来の方向性(目指すべき姿)
4.質の高い教育をみんなに 5.包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	4.1 2030年までに、全ての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的に学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。	定期的に地域のイベントに参加し、交通安全と反射材の有効性をアピールする 交通事故防止の活動を通して地域の人々との共有を図る
SDGs経営優先課題検討リスト「for Business」		
Goal	ターゲット	将来の方向性(目指すべき姿)
3.すべての人に健康と福祉を 8.あらゆる年齢の全ての人々の豊饒的な生活を確保し、福祉を促進する	3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死者数を半減させる。	社会に反射材の認知を広げ交通事故を減らす 全国の警察・学校等に反射材の販売を拡大する
12.つくる責任つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する	12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	不良率を改善する。 不良率が改善すれば自ずと余剰生産が減り、材料消費や余剰生産が減り廃棄量も削減できる また生産効率も上がる労働時間の短縮もできる
9.産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じて、インフラ取壊や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。	丸仁のクリーン技術を広くアピールしてシェアを拡大する

■ 課題検討リスト

SDGsを取り込んだ経営ビジョンが社内に浸透し、自主的に経営計画を実行する体制へ

経営ビジョンに基づく「SDGs中期経営計画」を策定し、経営目標を明確にした。これを「SDGs部署別アクションプラン」「SDGsアピールアクションプラン」「SDGsパートナー宣言」の実行計画に落とし込んだ。

波及効果として、プロジェクト活動を通して、社員に経営ビジョンが浸透し、経営計画のPDCAを自主的に回せる基盤ができた。



■ SDGs宣言



■ 経営方針説明会

活動を振り返って

経営者の声

SDGs経営をビジョンから実行に移行できました。

プロジェクトに参加した社員にとっては、SDGsを基礎から知る状況でしたが、他社実例なども交えてとてもわかりやすく支援をいただき感謝しています。

SDGsの目標に向かって取組むことが会社の利益になり得ることが理解でき、また、その考え方が社員と共有できたことが大きな成果となりました。中期計画、事業戦略・アクションプランの策定により、やるべきことが明確になりました。

これからは本番であり、やりきることが重要と考えています。



代表取締役社長
雨森 研悟 氏

プロジェクトリーダーの声

会社の課題や将来目標を全社で共有が図れました。

最初は、SDGsは何かよくわからない状況から始まった活動でしたが、会社の課題や将来の目標について話合うことは有意義でした。ミーティングを重ねるごとにメンバーの意識や理解度も深まっていたことを実感できました。

これからプロジェクトメンバーと各部署の責任者が中心となり、SDGs目標達成に向けて計画したアクションプランを実行し、持続可能な社会と丸仁の成長に貢献していきます。



管理部課長
見延 嘉昭 氏

派遣専門家として

SDGs経営のトップランナーを期待します。

SDGs経営の予備知識が無いプロジェクトメンバーがその必要性・重要性を理解し、経営計画、さらに行動計画への落とし込みを行うことができました。

今後は、その実践段階に移り、プロジェクトメンバーは現在のモチベーションを保ちながら全社員を巻き込んだ活動を行い、アクションプランの具体化により経営貢献につなげていただきたい。また、同社は福井県の繊維企業におけるSDGs経営のトップランナーのポジションも狙える潜在能力があり、リード役となることを期待します。



アドバイザー
川嶋 正己

管理者として

プロジェクトを通して人材育成の成果が得られました。

当初のスケジュール通りに順調に進捗し、成果が得られました。現場からのボトムアップによって、現場視点の課題が多く集められ、意欲的な中期経営計画がまとめられたと思います。

SWOT分析等のツールを用いて、各自が自社の課題と向き合うことができ、人材育成の面でも相応の効果があつたと推察します。

今後もプロジェクトが社内で継続し、アクションプランの実行段階に移ることから、必要に応じて側面的な支援とアドバイスを行っていきます。



アドバイザー
竹田 健一

担当職員として

当社ならではのSDGs経営計画が策定されました。

策定された経営計画は、「反射材の認知を広げ交通事故を減らしSDGs達成に貢献すること」など、同社ならではの内容が示され、SDGsへの深い理解と実現にかける思いを感じることができるようになりました。同社の皆様の取組みへの前向きな姿勢により、全国有数の先進的なSDGsの支援事例となりました。

企業支援課 氏家 永史